

誰もが住み良い農村地域を目指し、
景観美化活動にも取り組んでいます。



農業に懸ける情熱



1 就農したきっかけ

両親が農業を営んでいたこともあり、幼い頃から「将来は農家になるんだろうな」と感じていました。

岩見沢農業高校へ進学し、卒業後は農業を学ぶために1年間アメリカへ研修に行きました。働き方や栽培方法、農業への考え方など、日本の農業との違いを知ることができました。自分が目指す農業にどう活かせるかと考えているうちに、少しずつ「農家」としての自覚が芽生え、気づいたら農業に携わって20年が経過しました。

2 就農当時のエピソード

就農当時は作業機の運転に慣れていなかったこともあり、地域の先輩たちと共同で使用するコンバインやトラクターなどの作業機をよく壊していました。先輩たちには申し訳ない気持ちでいっぱいでしたが、優しく根気強くいろいろと教えてもらったことで、今日に至っています。私も先輩方に教えていただいたように後輩たちには「親切」「丁寧」「根気強く」を心掛けて指導に当たっています。



3 力を入れて取り組んでいること

水稲の直播栽培に力を入れています。今年で栽培して3年目を迎えますが、1年目は栽培のノウハウも無く、全てが手探り状態でした。仲間と情報を持ち寄って喜・憂しながら懸命に取り組みましたが、浸水不足で生えむらが発生し、最終的には全倒伏してしまいました。その反省を活かし、昨年は水張り日数を見直し、自然落水させることで浸水不足を防ぎました。また、倒伏を防ぐために、早めに水田の水を切り、倒伏軽減剤の散布を行うことで、きれいで刈りやすい水田になりました。

4 誰もが住み良い地域を目指して

自分の畑だけではなく、中幌向地域全体が安全できれいな、住みやすい地域になるよう努めています。

地域の景観美化のために、年に数回、地域住民が集まり、水田や畑の中だけではなく、地域全体のゴミ拾いも行っています。

通勤や通学で道路を利用する人たちが気持ちよく使えるよう、今後も景観美化活動を続け、きれいな地域を維持してまいります。



地域の景観美化活動



人物 memo

岩見沢市中幌向町
池田 篤 さん(43歳)

父の精一さん、母の千恵子さんの家族3人で約26haの農地に水稲や小麦、大豆、カボチャを栽培。幼い頃から農業に携わり、高校を卒業後、農業を学ぶためにアメリカへ渡航。5年前に父から経営を引き継ぎ、現在は収量の向上と住み良い農村地域の確立を目指し、営農に励んでいます。